

## 現代社会に生きる私たちと西欧の歴史

—European history for today: What can we learn from the past?—

社会科教育 森 貴子

### 1. 授業の基本情報・概要

2022年度前期・月曜日2限開講の外国史1は、一回生以上を対象に、上記タイトルで開講された。一般的包括的な内容を含む、中学社会・高校地歴の教員免許状取得に必要な科目であり（選択必修）、中等教育で扱われる西洋史領域の基礎を学ぶものである。西洋史の分野（外国史1・2・3）では例年最も多くの、かつ多様なコース・専攻の学生が履修する。

#### (1) 講義の目的

本講義の目的は、現代社会の特質を、資本主義の生まれた西欧を場として歴史的・長期的観点から捉え直させ、今という時代がどんな時代であるのかという「歴史感覚」を身につけさせることである。また、中学校社会科や高校地歴の教員を目指す学生が多く受講するため、中世から近現代について最低限必要となる西洋史の知識を獲得させたいという思いがある。

より具体的には、①中世から現代までの西洋史における歴史的流れを大まかにイメージできる、②封建制、コミュン運動、資本主義などの基本的用語について、正確に説明することができる、③現代社会をめぐる諸問題が、歴史的に形成されたものであるという認識を持ち、論述することができる、主として以上の目標を掲げている。

#### (2) 講義の詳細

授業は、『あなたが歴史と出会うとき』（堺憲一著、名古屋大学出版会、1989年）をテキストとしつつも、そこに最新の研究動向を加えながら中世から近代（世界大戦前）までを概観し、前近代と比較した場合の近代社会の特質を整理した。主たる内容は、中世の農村（荘園制と領主＝農民関係／三圃制と農村共同体）、中世の都市（都市の形成と自治／経

済活動とギルド）、「封建制の危機」と中世社会の変容、「地理上の発見」と国際的商業活動の変化、資本主義成立の精神的背景（宗教改革）、イギリス産業革命とその功罪、である。

学生に対しては、テキストについて、各回の授業で扱う範囲を事前に読み込み、自分なりの理解をしておくことを要求した。また、各回の内容に沿った史資料を可能な限り準備して、学生による理解を手助けすると同時に、ビデオなどの映像資料（大航海時代や産業革命に関する）も利用して、各々の時代をイメージしやすいよう工夫した。取り扱う内容については、各々のテーマをめぐる研究動向に触れながら、歴史解釈は不変ではないこと、テキストはある特定の視点からの叙述であることを強調している。

### 2. 授業評価の内容と結果

授業評価は、学生に無記名アンケートを実施し、その結果にコメントを付すことで行うこととした（2022年7月29日の学期末試験終了後に実施）。アンケート回答者は40名（初等教育コース小学校サブコース一回生22名、二回生2名、四回生1名／中等教育コース国語教育一回生2名、社会科教育一回生4名、英語教育一回生3名／特別支援教育コース一回生5名、二回生1名）であった。

◎問1～6は、次の五段階で評価してもらい、下表のような結果を得た。

<評価基準>

- 5：強くそう思う（非常に良い）
- 4：ややそう思う（良い）
- 3：どちらとも言えない（普通）
- 2：あまりそう思わない（あまり良くない）
- 1：全くそう思わない（良くない）

< 問い >

- 問 1 この授業への出席状況は  
問 2 授業のテーマ・目的は、明確でしたか  
問 3 教員の説明は分かりやすかったですか  
問 4 配付資料・映像資料などは有用でしたか  
問 5 授業の内容・レベルは、あなたにとって適切でしたか  
問 6 授業によって考え方が培われたり、得るところがありましたか

評価	5	4	3	2	1
問 1	28	7	4	1	0
問 2	27	13	0	0	0
問 3	26	12	2	0	0
問 4	25	11	3	1	0
問 5	15	15	8	2	0
問 6	25	15	0	0	0

\* 問に対するコメント

- 問 2 : テーマを始めに教わった / 中世ヨーロッパの生活を学べた  
問 3 : 分かりやすかった  
問 4 : 映像を見た / たまに使っていた  
問 5 : 世界史を高校で選択していないとかなりの自習が必要 / 何年に何が起こったというような内容ではなく、難しかった  
問 6 : 興味を持って取り組んだ / あまり知らなかった部分をよく知ることができた

◎問 7、問 8、問 9 は記述式で解答を求めた。  
以下では内容を整理して取り上げる。

問 7 この授業で良かったと思う点、印象に残った点を挙げてください。

板書に要点をまとめていた点・あとから見ても内容がしっかりわかる・復習しやすい (5 人) / 配布資料が豊富で理解しやすかった (5 人) / 先生の説明がわかりやすかった・世界史を習っていないくても理解できた (3 人) / 近代と前近代の西欧の人々の考え方や生活がよく分かった (3 人) / 動画を見て具体的に内容を理解することができた点 (3 人) / 話が面白かった (2 人) / 先生がひたすら楽しそうに授業をしていたこと (2 人) / 生徒に寄り添った授業をしてくれた点 / 授業のスピード

ード / 歴史的背景に関する話を詳しくしてくれたこと / 歴史が現在の自分自身の生活に影響を与えたこと / 新しい知識をたくさん得ることができた / 事物や人物を暗記するのではなく、ヨーロッパの歴史の流れを見ることができた点 / 高校レベルから大学レベルへの深化を感じることもできた / 経済の視点から歴史を見ており、興味深い内容であった / 今までの世界史とは違った学びを得られたこと / 今まで習ってきた知識を違う視点で見ることで、流れが分かりやすくなる点があったため、良かった / 世界史を習っていなかったため、歴史的なつながりを知れた点 / 教科書にそった授業であった点 / 大航海時代が面白かった / 楽しい授業が多かった

問 8 この授業で改善すべき点を自由に挙げてください。

説明が速い・スピードが速くて書ききれないことがあった・駆け足になることが減るとさらによい (3 人) / 板書のスピードが少し速い (3 人) / 授業内に授業を終えること・授業があまり進んでいない (3 人) / 板書の量が多い (2 人) / 能動的な学習をする機会が少ない / 受講者が考える時間が欲しい / 学生が発言できる機会を増やすこと / グループ等での話し合いがあればよいと思った / 資料がどこを指しているのか、少しわかり難い

問 9 近代と前近代社会の特徴や歴史的変化過程をテーマとしたこの授業を受講して、ヨーロッパや日本という国の特質、ひいては我々の生きる現代世界の諸問題について、考えることができましたか。

あった・はい (7 名) / 少しはあった・以前よりは少し考えるようになった (3 人) / 資本主義についてよく考えることができた / かなり複雑で難しい内容が多かったけれど、近代、前近代の歴史を学ぶことで、今に活かせる学習ができたと考える / ヨーロッパの資本主義以前から以後まで学び、ヨーロッパの現在の考え方になる過程を少し理解できたと思った / 前近代から近代への移り変わりを考えることはとてもおもしろかったし、現在に繋がるが多く、より深く勉強していきたいと思った / 変化が起きるには必ず理由がある

ことを学んだ。また、それぞれの国の歴史を知ることで、今の世界の見方が変わった／発展していたオランダが一度国力を弱めたように、発展し続けることはよいことなのかと思った／外国史は苦手だが、興味を持って受講できた／天候と農業の関係や、植民地支配が現在の国際関係に影響を与えていることを考えた／高校世界史では触れることのなかった庶民の生活等に興味を持ち、自主的に学習することにつながった／南北問題や貧困について考えた／現在起こっている諸問題が歴史とどのようにつながっているのか、考えたいと思った／経済については何が正解とは言い切れない事柄が多いと感じた／ヨーロッパと日本は年代こそ違うものの、似たような歴史的变化過程を経験していると感じた。また、資本主義社会について勉強する中で、資本主義、社会主義、共産主義のメリット・デメリットについて考え、何が一番適切なのか考えたいと思った／日本と異なる点も多く、日本史を学んでいた自分にとっては面白かった／日本は成立以前のムラ意識と、以後の社会の両方を持っている国であると感じた／日本の特質までは深く考えられなかったけれど、ヨーロッパの特質を詳しく知り、農業については自分の中で日本と比較して考えることができた／少し難しい内容だったが、考えるきっかけにはなった／今も昔もトラブルは絶えないから、そのトラブルを上手くかわして生活していくすべを身につけたいと思った

### 3. アンケートに対するコメント

外国史1については、一昨年、昨年とムード上での遠隔授業を余儀無くされたが、今年度は全ての回を対面で行うことができた。学生の顔を見ながら講義できることは大変に喜ばしいことで、そうした私の気持ちが学生にも伝わっていたようである（問7に対する回答「先生が楽しそうに授業をしていた」）。他方で、遠隔授業用に情報を書き加えたノートを用いて講義を進めたために、なかなか授業が進まず、話すスピードが速くなったり、チャイムが鳴った後も授業を続けざるを得ないことがあったりした（数分間であるが）。受講生から改善点として指摘されていたのも、こうした授業時間の管理に関わる事柄であった（問8の回答）。

1から6の問いに関しては、問5を除けば、

五段階の4と5に評価が集中しており、テーマの明確性、担当教員の説明、資料の有効性、授業によって得られた成果の諸点について、概ね好評だったと判断してよさそうである。授業の内容・レベルに関する問5では、受講生の25%にあたる10名が、3及び2と回答している。問5のコメント（世界史を高校で選択していないとかなりの自習が必要／何年に何が起こったというような内容ではなく、難しかった）や、問8で「説明が速い」、「駆け足になるところが減るとよい」などの回答があることから、内容が難しいと感じている受講生が一定数いて、もう少し時間をかけて説明してほしいと感じていたことが分かる。この点については、毎回の講義毎にテキストの該当箇所を指示し、予習・復習を喚起するとともに、分からないところは質問に来よう呼び掛けているが、なかなか効果が現れず（質問に来る受講生は少ない）、悩ましいところである。

問7からは、ビデオや配布資料が理解の助けとなったとの回答が多く、その効果を確認することができた。内容については、「事物や人物を暗記するのではなく、ヨーロッパの歴史の流れを見ることができた」、「経済の視点から歴史を見ており、興味深い内容であった」、「今まで習ってきた知識を違う視点で見ることで、流れが分かりやすくなる点があったため、良かった」などの肯定的評価を得た。高校までの世界史とは異なって、政治的出来事よりも社会経済に焦点化し、より幅広い社会層の生活様式とその変化にアプローチする点が、新鮮で興味深く感じてくれているようである。

授業の改善点を尋ねた問8については、話すスピードや板書の速さ・多さに指摘が集まっている。改善できる部分是对応したい。ただし、大学の授業では板書を全て書き写す必要はなく、話を聞いて要点を掴み、自分自身のノートを作ることも大切な訓練である。初回のイントロダクションでこの点のアナウンスはしているのだが、なかなか実行できないようである。また、受講生が、教員の話の聞くだけではなく、自分で考えたことを発言したいとの要望を持っていることも判明した。限られた時間の中で、どうすればそうした要望に応えられるだろうか。検討していく必要がある。

問9は、本講義を通じて、西洋の歴史と現代日本に住むわれわれとの関わりについて、何を考えたか尋ねたものであり、まさに本講義の目的に関わる問いと言える。「近代、前近代の歴史を学ぶことで、今に活かせる学習ができた」、「資本主義について考えた」などの一般的なものから、さらに進んで、「発展していたオランダが一度国力を弱めたように、発展し続けることはよいことなのかと思った」、「天候と農業の関係や、植民地支配が現在の国際関係に影響を与えていることを考えた」、「南北問題や貧困について考えた」、「資本主義、社会主義、共産主義のメリット・デメリットについて考え、何が一番適切なのか考えたいと思った」など、かなり具体的な内容を持つ回答も散見され、そこから受講者自身が考察を深めた様子を看取することができた。さらに、西洋と日本を比較して、その共通点や相違点に思考を巡らせた学生の存在も確認できた。現代社会に生きるわれわれの暮らしが、過去の歴史の積み重ねで出来上がっていること、そして西洋を含めた他地域との交流を通じて、互いに影響し合いながら形成されてきたことを理解するとともに、歴史を通じて変わったことと変わらないことを洞察できる力を身につけてもらうために、取り組みを続けていきたい。